

令和４年度予算総括質疑の概要

令和４年第１回二宮町議会定例会

日 時 令和４年３月２日（水） 午前９時３０分より

No.	質 問 議 員	質問の概要（本人の提出原稿）
1.	大沼 英樹議員	喫緊の課題がある中、さまざまな分野の世界基準の目標「SDGs」を目指し、持続可能な町づくりとは具体的に何をするのか。また、必要な組織体制の整備の一環として、現在の役場内部と思われるコロナウイルス感染者の発生をどのように考えているか。 「生活の質の向上と定住人口の確保」 1. 小児医療費助成の所得制限を撤廃したが着眼点はどこか。 2. 地域福祉の充実と医療・介護・保健事業の連携強化での、国民健康保険事業における、町民の健康状態の把握や、医療費縮小への取り組みはどのように進めるのか。 3. 分離型の一貫校に保護者、生徒、教員が納得できる利点があるのか。 4. スマホ教室等における高齢者に向けた活用の仕組みづくりはどのようなか。 「環境と風景が息づくまちづくり」 1. 有害鳥獣に対する取り組みはどのように考えているか。 2. コロナ禍による景気減速が懸念されているが問題視している事は何で、どのような対応を取れるか。 「交通環境と防災対策の向上」 1. (仮称)新庁舎・駅周辺公共施設再編計画から新庁舎・駅周辺公共施設再編計画に名称変更するまでの経緯と、新庁舎の建設場所を果樹公園に変更した理由は。 2. 消防団の処遇改善を行った予算編成はどのような考えで変更されたのか。 「戦略的行政運営」 1. デジタル推進室を設け町業務としてどのように ICT 化を進めていくのか。
2.	一石 洋子議員	令和４年度予算施政方針について以下、総括的に質問する。 1 「生活の質と定住人口確保」 ○パンデミックとして世界中を席卷した新型コロナウイルス感染症は子どもたちに深刻な影響をもたらした。 高齢者福祉については制度上セーフティネットが準備されてきたところで施政方針にも具体的な方策が示されているが、子ども・若者についてはコロナ前から未だ制度の不備が議論されるところでの打撃であった。国は「子ども庁」の議論に入っているところだが生活現場に向き合わない論点で停滞しており、市町村でのまずは目の前の子ども

	も・若者へのまさに誰一人取り残さないスピーディな政策が求められる。 施政方針に二宮町は、令和3年度「ことわらない相談窓口」を設け一定の実績があったと述べられているが、社会福祉士のかかわり方と、ここが子ども、若者の支援に繋がったかを確認するとともに、令和4年度の重点施策であるヤングケアラー救済の具体の方策を問う。 ○明石市にみられるように、子どもたちにいかに向き合う自治体であるかが、定住人口の確保について最も重要である。昨今現場からの非常に強いニーズから、各地でチャレンジが生まれているのが学校教育である。 二宮町は小中一貫教育を重点施策としている。 そもそも学校施設再編が、ハードではなく子どもたちの立場からのソフトに向き合う視点から議論すべきとの教育委員会の方針から、小中一貫教育を研究し始めたと認識している。 子どもたちを生まれる前から成人まで一貫して支える子育て包括支援という福祉の方向性と親和する施策と認識している。令和4年1月7日に開催された教育講演会は、ここ数年の二宮町の教育行政の深化を示すものだったと思う。施政方針では、令和4年度の小中一貫教育校最終の準備を進めていくとしているが具体的にどのように進めるのかを問う。 ○活力ある地域コミュニティの形成に係る重点施策として、町民活動団体へのニーズに沿った情報及び交流の場とあるがいかなる交流か、また目指すところを聴きたい。 ○子宮頸がんワクチン接種事業については、二宮町は近隣自治体に先んじて接種者へのアンケート調査や救済など議会が求め行政が応えてきた。今般の厚労省の進める勧奨再開に係る令和4年度の事業について如何にして進めるのか確認したい。さらに新型コロナワクチン接種事業は副反応被害への対応が重要な局面を迎えるため、国と連携した最新の体制を確認したい。 2「環境と風景が息づくまちづくり」 施政方針にあるように、令和3年度 町と複数の環境団体が協働するエコフェスタにのみや特別イベント「ぼくたちわたしたちの地球会議」は、コロナ下にも関わらずかつてない一歩を記し高い評価を受けた。公募した小中学生が、町内13の環境に関わる団体や事業者の活動現場を訪問取材しラディアンホールで映像とともに発表、さらに若者たちがファシリテーションして子どもたちと会議を重ね、舞台上で意見表明した。子どもたち、町内環境団体、専門家、保護者、行政が繋がる文字通りの環境フォーラムであった。第3次環境基本計画策定はこれを受けてさらなるこの町のSDGsに資する展開になると期待する。令和4年度の計画策定はどのように進めるのか問う。 3 戦略的行政運営について 日本が子どもの権利条約を批准するも先進国でかくも低い子ども・若者の幸せ度、若年層の自殺者の異常な多さ、ジャーナリズムが劣化、明らかに近年 GDP 含めて経済が停滞していることと政治参画が進まなかったことに重大な関連性があると考える。
--	--

		政治とは、そもそも人々の生活の場から立ち上がるもの。自治体の政治の役割は正念場を迎えている。第6次総合計画策定に子どもたちの意見を聞いたことは一歩前進であった。 子どもたち、若者、町内の専門家、事業者、地域の大人たち、行政が智慧を合わせ自らまちづくりの主体・主権者として共創する場を創ることに意義があると考え。令和4年度の総合計画策定の進め方について問う。
3.	野地 洋正議員	一般会計歳入（対前年6億7,100万円8.2%増）は、町税減、繰越金増、基金繰入金とする自主財源47.1%に対し、52.9%へと構成比が逆転し依存財源に大きく頼る予算案となった。その根拠、傾向をどう考えるか。 歳出においては建設事業費、人件費、物件費が増となる一方、維持補修費や扶助費が減となり、現生活や支援を必要とする町民への影響は少なからずあると考えられるがいかがか。 また、積立金は庁舎整備基金を9,000万円と増やし、公共施設整備基金や災害対策基金へはわずか50万円である。その意図と基金の目標、現状、今後について確認する。 総合計画後期基本計画より 1「生活の質の向上と定住人口の確保」 ○施設分離型小中一貫教育校は、「2つの学校グループを設置し、学校教育目標を統一」としながら「各校の学校運営協議会を中心に5校の特色を生かす」ともされており相反するとも捉えられるが真意は。また、4年度の準備、5年度の運営、その後の方向性は。 2「環境と風景が息づくまちづくり」 ○東大果樹園跡地活用では、各種団体が積極的に活動する一方、行政への不信は続いていると思われる。「協議会の自主的な取り組みへの支援」とは具体的にどういうことか。 コミュニケーション、運営アドバイス、他団体との連携、法的根拠など、反省、課題、対策等 ○吾妻山公園の道路舗装、各種案内板設置、引き続きのタクシー送迎実証実験が、どのような魅力となり将来へ繋がるか。また、観光協会の組織力強化とは何を意味し、「二宮町観光戦略」とはどのような内容で何を求めるものか。 3「交通環境と防災対策の向上」 ○「公共施設再配置・町有地有効活用実施計画」「新庁舎・駅周辺公共施設再編計画」「駅前複合施設基本構想」「新庁舎基本計画」と各種計画、構想が煩雑であるが、その位置づけ、関係性を確認する。また、袖が浦プールに対する予算はなく、小児病院跡地も例年通り除草委託料のみで方向性も示されていない。4年度の管理、今後の扱いをどのように考えるか。 4「戦略的行政運営」 ○自治体デジタルDXについてはデジタル推進室を新設による研究と推進とあるが、将来的にどのようなイメージ、目標を持ち進めていくのか。 ○町長公約「退職金廃止」に向けての現状と今後の対応は。

4.	羽根かほる議員	令和４年度は引き続きコロナ禍が続くと予想される。限られた予算をどのように有効に使い、町民の生活をいかに支えていくのか。また、新庁舎整備、小中一貫教育についてはその方針を大きく転換した。令和４年度は町長の任期最終年度。町長が考えるまちづくりについて施政方針に沿って以下の観点から問う。 「生活の質の向上と定住人口の確保」 ①小児医療費の助成 令和４年１０月から保護者の所得制限撤廃に踏み切った。町長の考えは。 ②学校教育 小中一貫教育について、町長の学校の統合についての考えは。 ③地域コミュニティの形成に関する取り組み 地域、団体間の連携が必要と考えた理由と今後の方針は。 ④誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける取り組み 進む高齢化と、町民が担っている地区の役割の状況をどう捉え、対策を講じていくのか。 ⑤通いの場や、未病センターの健康増進の取り組みについて。 「環境と風景が息づくまちづくり」 ①東京大学果樹園跡地 さらなる活用の検討とは何か。令和９年度までの貸し付け終了後の方針は。 ②観光協会の組織力強化について 町長の考える組織力強化と観光戦略とは何か。 「交通環境と防災対策の向上」 ①新庁舎・駅周辺公共施設再編計画 ・計画全体を町民はどう受けとめていると考えているか。 ・町長の考える総事業費は。 「戦略的行政運営」 ①効率的な行政運営 職員一人一人がやりがいを持ち、意欲的に業務に取り組み、積極的な意見交換をするために、町長として、どのような策を講じているか。
----	---------	---

備考：２番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。
本人の通告書の原稿を転記したものです。